

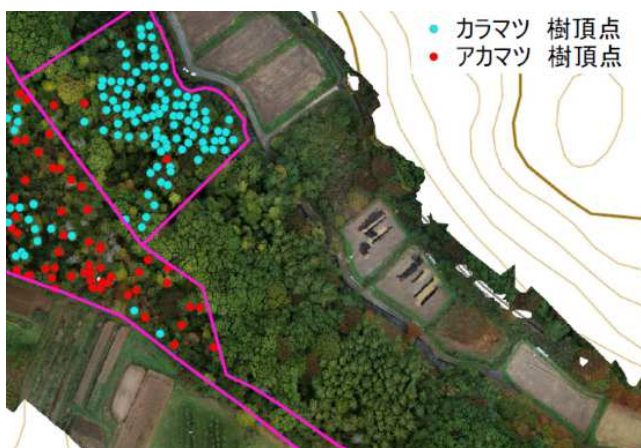
スマート林業のアレコレ

●林業の発展に向けたスマート林業の取り組み

林業の持続的かつ健全な発展を図るためには、生産性や安全性を高める新技術を活用することが重要です。この中で情報通信技術（ICT）等を活用し資源管理や生産管理を行うスマート林業の取り組みを紹介します。

●ICT等を活用した佐久森林組合の管理業務

佐久森林組合では、森林資源の調査や作業員の労務管理にドローンやICTを活用しています。空中写真等の情報を活用した森林資源の調査では、収益や費用の見積りの精度を上げて良い施業提案を行うことが期待できます。また、勤務状況の集計では、技能職員が勤務データをクラウドに直接入力することで事務経費を減らし、工事現場ごとの原価データを職員が共有することで作業内容の分析や改善を図ることに役立てることが期待できます。



20/10/21(水)	2151	C	1.00	①A職員
20/10/22(木)	2151	C	1.00	①A職員
20/10/23(金)	9991	研修	1.00	①A職員
20/10/24(土)		#N/A		①A職員
20/10/25(日)		#N/A		①A職員
20/10/26(月)	2151	C	1.00	①A職員
20/10/27(火)	2151	C	1.00	①A職員
20/10/28(水)	2151	C	1.00	①A職員
20/10/29(木)	2151	C	1.00	①A職員
20/10/30(金)	2013	F	0.50	①A職員
20/10/30(金)	9998	有給	0.50	①A職員

作業員が入力した勤務状況の例

ドローンを使った森林資源の調査

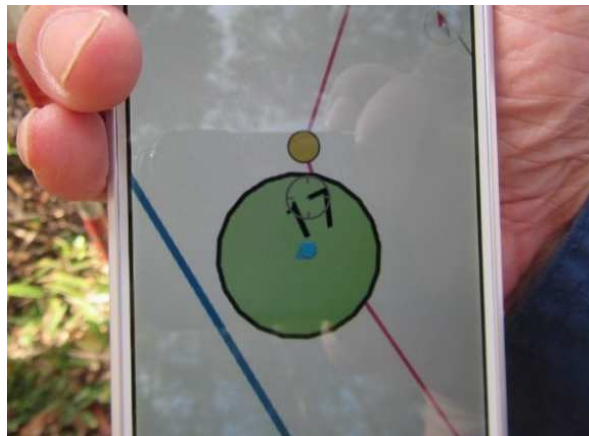
●GNSSの技術を利用した森林整備の調査

GNSS（Global Navigation Satellite System / 全球測位衛星システム）の技術はカーナビ、無人運転、電波時計などいろいろな分野で利用されています。

林務課では森林整備を行った場所の位置確認を行う際にGNSSの利用に取り組んでいます。このやり方は、上空が開けていることなどに十分注意すれば、巻き尺などを使用することなく短時間に位置の確認を行うことができます。



GNSS受信機とスマートフォン



画面に示された現在地（南相木村）